

# SHOW HEY シネマールーム

★★★

## ダンサー、セルゲイ・ポルーニン 世界一優雅な野獣

2016年・イギリス、アメリカ映画  
配給/アップリンク、パルコ・85分

2017(平成29)年7月21日鑑賞

シネ・リーブル梅田

Data

監督：スティーヴン・カンター

出演：セルゲイ・ポルーニン/イー  
ゴリ・ゼレンスキー/モニ  
カ・メイソン

### ■■■ショートコメント■■■

◆映画は、エンタメであると同時に勉強！それが私の持論だが、芸術家、音楽家、舞踊家など、実在の人物を主人公にしたドキュメンタリー映画はその典型。

本作でも85分間席に座りスクリーンを観ていれば、「世界一優雅な野獣」「ヌレエフの再来」と呼ばれたウクライナ出身のバレエ・ダンサー、セルゲイ・ポルーニンのバレエ・ダンサーとしての凄さと、その真の生きざまを楽しみながら学ぶことができる。

◆ウクライナといえば、昨今はウクライナ紛争で有名だが、体操でも有名だ。子供の頃のセルゲイ・ポルーニンは体操ですごい才能を見せていたから、父親と母親は息子を体操の道に進ませるか、バレエ・ダンサーの道に進ませるか悩んだ末、後者を選択したらしい。そう聞きながら、子供時代のセルゲイ・ポルーニンをみていると、体操とバレエには多くの共通点があることに納得。

◆日本人のバレエ・ダンサーでは、男性では熊川哲也、女性では草刈民代が有名だが、近時次々と若手が国際舞台に登場している。その一因は、金持ちが道楽的に(?)我が子にエリート教育を施すことができる日本の経済状態にあることは明らかだが、貧乏な国ウクライナでは、何故?そしてまた、貧乏な一家、ポルーニン家では何故?

◆子供時代のポルーニンについては、本人の努力もさることながら、外国へ出稼ぎに出て子供の学費を稼ぐ父親、息子の側に付き添い何かと世話をする母親をはじめ、家族の涙ぐましい努力にも注目！ポルーニンのために家族がこれほどの努力をすることができたのは、何よりも息子の才能を見込んだためだが、さて、彼が成功する確率は・・・?

本人と家族のそんな努力が無駄になることも多いが、ポルーニンは予想以上の成功を収め続けたから、両親はじめ家族は大喜び。しかし、その喜びはいつまで・・・?

◆中国映画の『北京ヴァイオリン』（02年）は、天才バイオリニストの子供と父親との感動の物語だった（『シネマルーム5』299頁参照）が、それはあくまでフィクションだから、いかようにも物語を作ることができた。しかし、本作はドキュメンタリーだから、途中からはポルーニンの波乱の人生に焦点が移ってくる。つまり、英国ロイヤルバレエ団のプリンシパルとして大成功しながらポルーニンは22歳で突然退団を発表し、以降は天才ダンサーとしてはかなり破天荒な人生を送ることになっていく。それはそれで「劇的」で面白い。うえ、本作を観ているとポルーニンの内心の苦悩ぶりもよく見えてくるから、人生の勉強にもなる。したがって、これはこれでいいものだ。

◆さらに本作の良い点は、バレエを鑑賞するために劇場に行く暇のない私たちに、断片的にせよポルーニンの天才的な踊りをスクリーン上で見せてもらえること。近時は、日本でも劇団☆新感線「ゲキ×シネ」や松竹の「シネマ歌舞伎」など、舞台をそのまま映画で見せてくれるシステムが登場している。本作はそれとは違ってポルーニンの人生ドラマを描くドキュメンタリー映画だが、それでもいくつかのシーンでは子供時代の貴重な練習風景をはじめ、ポルーニンの踊りの成長ぶりとその素晴らしさを味わうことができるので、それにも注目！85分でポルーニンのことをこれだけ学習できれば、誰でも十分満足だろう。

2017（平成29）年7月28日記